

【学生による ESD 活動支援】

奈良市立飛鳥小学校 野外活動 支援報告書

特別支援教育専修 1 回生 南方 玲美

音楽教育専修 1 回生 橋本 茉奈

1. 実施日 令和元年 9 月 18 日 (水)
2. 場所 奈良市青少年野外活動センター
3. 参加者 谷垣徹 (大学院生)
仲村幸奈、奥田玲央、稲富麻莉、木村萌々香、橋本茉奈、南方玲美、山口春菜
石崎桃花、岡本彩希 (奈良ユネスコ協会青年部)
奈良市立飛鳥小学校第 5 学年児童、引率教員 約 80 名

4. 活動支援内容

令和元年 9 月 18 日 (水)、奈良市青少年野外活動支援センターにおいて、奈良市立飛鳥小学校第 5 学年の野外活動が行われ、本学ユネスコクラブの学生 8 名、奈良ユネスコ協会青年部 2 名が支援に当たった。1 泊 2 日の活動のうち 1 日目の活動に関わり、オリエンテーリングでのポイントチェック、野外炊飯、キャンプファイヤーの支援を主に行った。

今回の野外活動支援について以下の 2 点で振り返る。第 1 に私たちがどこまで手伝って良いのかについて、第 2 に準備の大切さについてである。

第 1 に私たちがどこまで手伝って良いのかについてである。これは特に、野外炊飯のときに強く感じた。準備段階では、各自与えられた役割に取り組み、カレーを完成させることができた。しかし、片付けをしているときに自分の班の鍋や飯盒、食器を洗わずに遊んでいる児童が見られた。そこで児童本人ではなく私たち学生が洗い場まで食器を運んだり、洗ったりしてしまった。ここでは片付けをして使う前の状態に戻す、またそれ以上に美しくして帰ることまでが大切だということを言葉で伝えなかったことを反省しないといけないと感じた。児童が今何をしなければいけないのかをきちんと把握し、状況に応じて適度な支援をしなければいけないと痛感した。

第 2 に準備の大切さについてである。このことは今回の支援の中で何度も感じたことである。オリエンテーリングでは、児童が地図を思うように解読できず次のポイントへの道を聞かれることがあった。しかし、私自身も初めての場所で答えることができないことがあったため、最低限の質問には答えられるような準備が必要だと感じた。また、キャンプファイヤーでは、歌詞が曖昧で覚えきれていない歌があり準備不足だった。私は野外活動を支える立場であり、大きな責任を担っているという意識が薄かったのだと気づかされた。児童にとって一生記憶に残る体験を支援することは、入念な準備が最も重要なことなのではないかと感じた。

以上 2 点が、今回の野外活動支援を通して特に感じたことである。普段はできない児童との深い関わりを持ったことや、学生全員が初めての挑戦をしたことで多くの発見や反省点があった。そして、児童にとって 1 度しかない貴重な活動に参加できたことの意義をしっかりと理解し、今後に活かしていくことが大切だと再認識した。これらのことを心に留めながら、これからの活動にも積極的に参加していきたい。



キャンプファイヤーの様子